



なごや学生 社会課題解決プログラム

活動レポート

(2022/9/2 ~ 2023/2/4)





「学生による社会課題解決プログラム」とは？

名古屋市が抱える社会課題・行政課題の解決に向けて、公募により結成された学生のプロジェクトチームが市の関係部署と連携しながら活動を行うプログラム。

各チームの活動にはコーディネーターがサポートに入り、大学の枠を超えたメンバーがアイデアを出し合いながら、チームで課題解決に向け取り組みました。

○活動期間

令和4年9月～令和5年2月

○参加人数

30名（1年:3名、2年:6名、3年:14名、4年:7名）

学生と名古屋市が協働で取り組んだ課題

- 課題1** 若い世代に市政情報を届けたい！
～若年層への市政広報の充実化
（担当課：市長室広報課、総務局人事課、スポーツ市民局
広聴課、環境局減量推進室）
- 課題2** 「若い世代が住みたくなるまち」ってどんなまち？
～学生の視点を通じた名古屋のまちづくり
（担当課：総務局企画課）
- 課題3** 地域活動の担い手不足を解消したい！
～地域コミュニティ活性化で住みやすく魅力ある名古屋へ
（担当課：スポーツ市民局地域振興課）
- 課題4** いのちのバトンをつなぎたい！
～骨髄バンクドナー登録推進
（担当課：健康福祉局環境薬務課）



プログラムの歩み

月	活動内容
8	○参加者募集（～8/12）、参加者決定
9	○キックオフイベント （市から課題説明、チームでのワークショップ等） ○プログラム活動スタート
10	
11	・ドライブイベント （チーム間での進捗共有、活動の見つめ直し等）
12	・セミナー①（効果的なプレゼンについて）
1	・セミナー②（効果的なプレゼンについて） ○活動終了、とりまとめ
2	○成果報告イベント 



キックオフ・イベントの開催

- 日時** 令和4年9月2日(金)14時～17時
- 会場** ナゴヤイノベーションズガレージ3階アネックス
- 参加者** 参加学生29名（欠席者1名）、名古屋市関係課職員

開催概要

プログラムのスタートを切るにあたり、参加学生と協働して課題解決にあたる職員、事務局・コーディネーター等が一堂に会してキックオフ・イベントを開催。担当課から参加学生に対し、課題の趣旨や求める解決策の方向性等について説明を行うとともに、ワークショップを実施してこれから一緒に活動をしていく仲間との交流を深めました。

キックオフ・イベント 当日のプログラム

- **ごあいさつ**（名古屋市総務局総合調整室・コーディネーター）
- **第1部 アイスブレイク ～チームでの自己紹介～**
- **第2部 名古屋市の課題について**（担当課から説明）
 - ・ **課題① 若い世代に市政情報を届けたい！**
（市長室広報課、スポーツ市民局広聴課、総務局人事課、環境局減量推進室）
 - ・ **課題② 「若い世代が住みたくなるまち」ってどんなまち？**
（総務局企画課）
 - ・ **課題③ 地域活動の担い手不足を解消したい！**
（スポーツ市民局地域振興課）
 - ・ **課題④ いのちのバトンをつなぎたい！**
（健康福祉局環境薬務課）
- **第3部 ワークショップ ～共感を生む伝え方～**



キックオフ・イベント 当日の様子





ドライブイベントの開催

日時 令和4年10月12日(水)・13日(木)両日ともに18時～19時30分

会場 学生共同活動拠点 N-base

参加者 参加学生14名 (10/12・10名、10/13・4名)

開催概要

プログラムがスタートして約1か月、自分たちの活動をふり返るとともに、他チームのメンバーに向けて進捗状況を発表し、お互いの活動に対してフィードバックを行う機会として開催。他チームメンバーからのコメントから新たな気づきを得られました。イベント後半は、今後の活動に活かすべく、未来年表から発想を広げ、バックキャストिंगの手法を体験するワークを実施しました。

ドライブイベント 当日のプログラム

■参加チーム

- ・10/12 課題①・課題④のチームが参加
- ・10/13 課題②・課題③のチームが参加

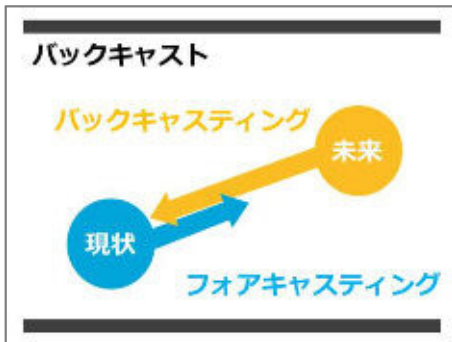
■これまでの活動振り返り

- ・各チームで約1か月の活動をふり返る

■他チームに対する相互フィードバック

- ・他チームに対して活動の進捗を報告、相互フィードバックを行う

■ワーク：バックキャストिंग・未来年表から発想を広げる



ドライブイベント 当日の様子



課題①チーム「名古屋の魅力をお届け隊！」活動報告



テーマ 若年層への市政広報の充実化 ～若い世代に市政情報をお届けたい！～

担当課 市長室広報課、総務局人事課、スポーツ市民局広聴課、環境局減量推進室

現状・背景

行政情報をいかに若年層に届けるかが大きな課題となっており、SNSなどの広報ツールの活用なども図っているが、依然として効果的な広報につながっていない。そもそも、若年層がどのような情報をどのような手段で欲しているか？逆に若年層にお知らせすべき情報などの整理も不十分なため、学生の生の声を伺いながら、若年層への行政広報の充実化を図りたい。

担当チーム

チーム名
名古屋の魅力をお届け隊！

メンバー
大学生8名
(4年生：1名、3年生：5名、2年生：2名)

チーム名の由来

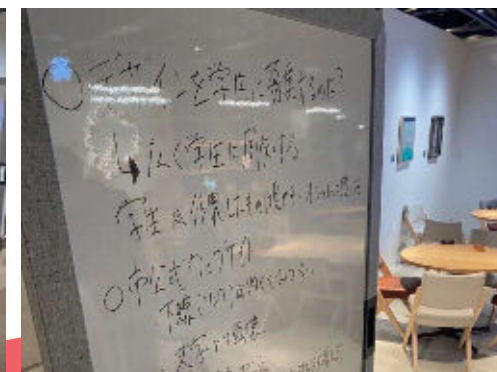
その名もズバリ！
若い世代に名古屋の魅力
をお届けたい！



活動の経過

- ✓ 若年層向けの効果的な広報という大テーマのもとで「名古屋市公式LINEのお友だち登録者数の増加、便利な機能の検討」「名古屋市職員の採用広報」「ごみ減量の周知啓発」という3つの具体的なテーマについて検討
- ✓ 3つのテーマごとに担当者を分け、他都市の事例を調査したり、アンケートを学生向けに行うなど、様々な試みを実施
- ✓ 3つのテーマを平行して進めていく中で、テーマごとの担当者同士で意見交換を図り、効果的な広報についての共通課題を見つける

活動の様子



活動実績

ミーティング実施回数	19回 (9月～2月)
フィールドワーク等	・アンケート調査の実施 10/19～10/26



- ✓ 公式LINEにおける情報発信について、カードタイプ・リッチメッセージを提案。実際に試行し市民アンケートを実施したところ、市民からも好評。
- ✓ 若年層への動画による情報発信について、親近感をもつ内容にする、ショートムービーにする、Youtube以外のコンテンツの活用等を提案。
- ✓ 名古屋市への志望者数を増加させるために、学生が参加するプログラムの実施やインターンシップの充実化、学生が求める情報発信を提案。
- ✓ 広報について全体的に、デザインの重要性（ポップでイケてるデザイン等）、複数の課にまたがっているSNSアカウントを統合することを提案。



02 LINEの中身

長い文章ではなく、視覚的にメッセージを伝えるべき

カードタイプ/リッチメッセージの利用提案

カードタイプメッセージ リッチメッセージ

03 ミーティング内容

話し合いで出てきた特徴的な案

印象的な動画にするには	動画を広めるには
<ul style="list-style-type: none"> CMの初めの5秒にインパクトを持たせる ごみ問題に親近感を持たらす → 私たちにどのような影響があるの?? ゴミの分別クイズ動画にする ショートムービーにする 	<ul style="list-style-type: none"> Youtube以外のコンテンツでの宣伝 名古屋市のYoutubeアカウントに動画投稿 → 情報的な広域による認知拡大 広聴課と協力して公式LINE での宣伝 名古屋市のYoutubeアカウントを統合

04 課題確認

若者に公務員/名古屋市職員の魅力を伝え、志望者数を増加させる

名古屋市職員を身近に感じてもらうために

Step.1	Step.2
民間志望の学生にも公務員を身近に <ol style="list-style-type: none"> 学生プログラムの実施 インターンシップの充実化 	公務員志望の学生をサポート <ol style="list-style-type: none"> 学生の求める情報を発信 「よくある質問」のより良い発信

04 学生からの主張

Point 01 デザインの重要性 Point 02 課を超えた連携がしやすい環境づくり Point 03 名古屋市SNSアカウントの統合

ポップで「イケてる」デザイン
「面白そう」「楽しそう」と思わせるデザイン

人事課以外の課の協力が必須条件
SNSアカウントを1つに

■市長室広報課のコメント

- ・皆さんからいただいた、沢山の良い提案を無駄にしないよう、市として様々な場面で改善を進めていかなければいけないと感じています。SNSのアカウント集約に関するご提案がありましたが、まさに、行政の"組織の壁"を取り払うための取組だと思えます。
- ・名古屋市では来年度から、各部署が広報に気軽にデザインの力を活用することができるような仕組みも取り入れていく予定です。「広報」は「Public Relation」の訳で、様々なステークホルダーと関係や信頼を築いていくこと。皆さんにはぜひ、今後も名古屋市に興味を持ち続け、「本当に改善がされているか？」とチェックをお願いしたいと思います。

課題②チーム「ふくろう」活動報告



テーマ 学生の視点を通じた名古屋のまちづくり ～「若い世代が住みたくなるまち」ってどんなまち？～

担当課 総務局企画課

現状・背景

名古屋市では、東京圏に対する社会減の状況が続いており、特に大学への就学期・就職期の年代の若者が東京圏へ流出する傾向がある。こうした課題に対し、若者（学生）ならではの視点を通じて、若者にとって名古屋市が魅力的なまちとなるためにはどのような施策展開が必要か検討し、名古屋市の次期総合計画策定に向けた議論に取り入れる。

担当チーム

チーム名

ふくろう

メンバー

大学生8名
(4年生：1名、3年生：6名、2年生：1名)

チーム名の由来

漢字の『福』をイメージ
名古屋市の課題解決から
福のある社会に導きたい！



活動の経過

- ✓ 「若い世代が、住み、働きたいまちってどんなまち？」という視点から、魅力と愛着を感じ、住み続けてもらえる名古屋のまちの姿を検討
- ✓ 職員との意見交換やメンバー内での議論だけではなく、市内各所で開催された複数の交流会に参加して、名古屋市に住む多様な人達と意見交換を行うなど積極的に活動を展開
- ✓ 観光、文化、子育て、交通といった様々な視点で提案をまとめる

活動実績

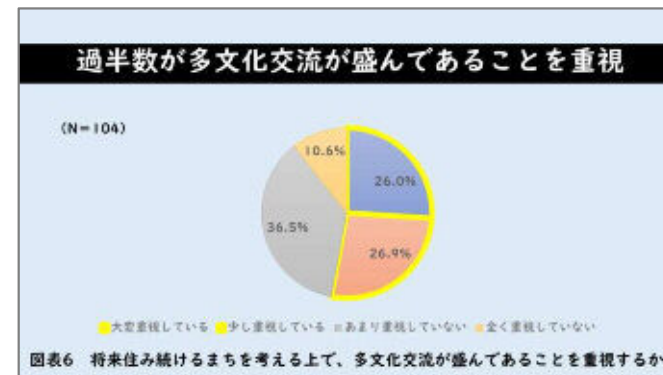
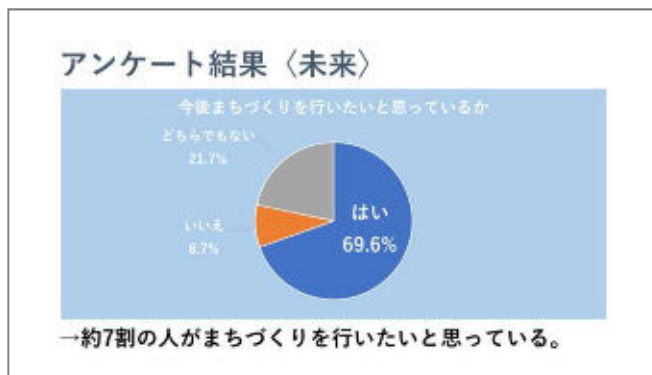
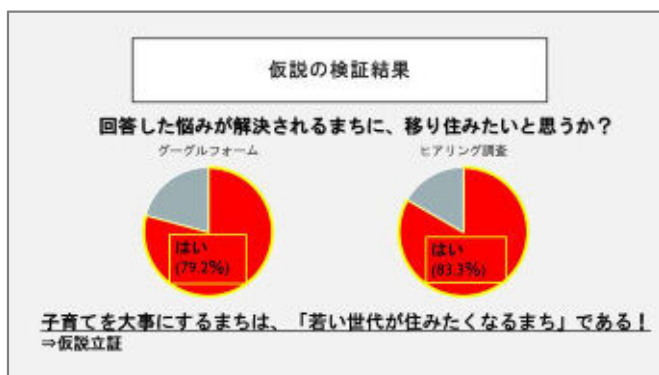
ミーティング実施回数	12回（9月～2月）
フィールドワーク等	・外国人留学生との異文化交流会参加／アンケート調査 12/10 ・多世代交流会参加 12/26 ・子ども食堂見学／アンケート調査 12/27

活動の様子





- ✓ 「若い世代が住みたくなるまち」について3つの仮説を立てた。①子育てを大事にするまち、②学生がまちづくりに関われるまち、③多文化交流が盛んなまち。アンケートやインタビュー等の実施により検証を行った。
- ✓ 子育ての悩みに対し、解決されるまちに移り住みたいと思うか？という調査において、約8割の人が「はい」と答えている。
- ✓ 学生を中心としたアンケート調査において、約7割がまちづくりを行いたいと回答。また、人をまちに繋ぎとめる役割を担うのは人であるというインタビュー結果が得られた。
- ✓ 外国籍の学生に対するアンケート調査において、過半数が将来住み続けるまちを考えるうえで多文化交流を重視すると回答。外国人留学生との異文化交流会にも参加しインタビューを実施した。



■総務局企画課よりコメント

- ・特に良かったなと感じた点の一つは、複数の仮説を立てて検証を進めていったこと。将来、皆さんにとっても自分ごととなるかもしれない子育てに関する視点をはじめ、いずれの仮説についても、普段の生活で率直に感じていることなど、学生の皆さんならではの視点が生きていたと思います。
- ・もう一つは、単なるアイデア出しに留まらず、自分たちでインタビューやアンケートなどを行うことで、仮説の検証を行い、客観性を持たせていたこと。活動を通して集めて下さった貴重な意見も、今後のまちづくりに反映していきたいと考えています。

課題③チーム「にじいろマーカース」活動報告



テーマ 地域コミュニティ活性化で住みやすく魅力ある名古屋へ ～地域活動の担い手不足を解消したい！～

担当課 スポーツ市民局地域振興課

現状・背景

住みやすく愛着の持てる地域、魅力ある地域をつくるためには、住民や様々な地域団体の方々などが、地域に関心を持ち、協力し合いながら身近な課題に取り組んでいく地域の力が欠かせない。しかし、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化等地域を取り巻く環境が急激に変化しており、地域活動の担い手不足がますます深刻になっている。

担当チーム

チーム名

にじいろマーカース

メンバー

大学生7名
(4年生：2名、3年生：2名、2年生：1名、1年生：2名)



チーム名の由来

多様性を重視！
7人の個性を活かして
世の中を虹色に染めていく

活動の経過

- ✓ メンバーがそれぞれ住んでいる地域の事例を共有したり、担当部署との意見交換を通して、担い手不足を解消する方法を検討
- ✓ 町内会や自治会で活動をされている人達にヒアリングを行ったり、地域のイベントに参加したりするなど、何度も地域に足を運ぶ
- ✓ 地域活動をされている方々と連携し、チームの中で出たアイデアを実際に地域で実践、提案に活かす

活動の様子



活動実績

ミーティング実施回数	17回 (9月～2月)
フィールドワーク等	<ul style="list-style-type: none"> ・学区ヒアリング 10/13・11/17 (明治学区) 10/27 (東志賀学区) ・学区イベント参加 12/6 (明治学区サロン)、 12/13 (明治学区子育てサロン)





- ✓ 大学生と地域を繋げる提案を目指し、明治学区・東志賀学区へのヒアリングと実際に地域のイベントに参加した。
- ✓ 長期的な活動につなげていくためには、自分のための活動でもあり、双方にメリットがなければならない。活動を通し見えてきた課題として、大学生側に時間的余裕がないこと、地域活動の情報が得られにくいことがある。
- ✓ そこで、大学生が地域活動に参加するハードルを下げる提案をしたい。具体的には、大学と地域が連携すること、大学生と地域をつなげるプログラムを実施すること、地域活動にスポットで参加できる仕組みをつくることを提案したい。



活動して見えてきた大学生参加の意義

地域に貢献、他人のための活動は長期的に活動することが困難なため、自分のための活動でもあり、双方にメリットがなければならない。

地域側のメリット

- ・子どもと高齢者の間に入る担い手になれる
- ・地域コミュニティの形成

学生側のメリット

- ・自分と違う属性の人との交流ができる
- ・地域活動が経験になる

活動したことで見えてきた課題

大学生と地域との間で信頼関係を築く難しさ

【時間的な余裕】

- ・長期的に関わることが難しい
- ・メンバー全員で集まれる機会が少ない

【地域活動の周知】

- ・自発的に調べても知らない情報が多い
- ・若者が参加できるイベントも多い

提案

大学生が地域活動に参加するハードルを下げる

情報収集のハードル

どこで開催されているかわからない

いつ行われているかわからない

地域の関係を築くハードル

他世代と変わるのが不安

若者の居場所があるのか

地域活動へ参加するハードル

活動へ参加する時間が合わない

続けられるかわからない

具体的な提案

情報収集のハードル→大学と地域の連携

学生と地域の関係を築くハードル

→大学生と地域をつなげるプログラムの実施

学生が地域活動に参加するハードル

→スポットで参加できるようなイベントスタッフの創設

■スポーツ市民局地域振興課よりコメント

- ・皆さんの取組を通して、地域振興課としても勉強になることが沢山ありましたが、その中でも特に強く感じたのは"情報提供の大切さ"。まずはそれぞれの地域で活動が行われていることを知らないと、活動への参加や、参加するメリットが伝わっていかない。
- ・今回、地域活動の一端に触れてもらったこと、さらに発表を通じ、プログラムに参加している他のチームの学生の皆さんにも伝わったこと。これはとても大切なことだと捉えています。若者への情報発信に関する課題解決とも関連させながら、地域の活動がより一層盛り上がりとともに、学生の皆さんにも興味を持ってもらえるようにしていきたいと思えます。

課題④ チーム「laughter」活動報告



テーマ 骨髄バンクドナー登録推進 ～いのちのバトンをつなぎたい！～

担当課 健康福祉局環境薬務課

現状・背景

白血病や再生不良性貧血などの血液疾患の治療法として、骨髄移植や末梢血幹細胞移植があるが、患者と提供者(ドナー)の白血球の型(HLA型)を一致させることが必要である。このHLA型は血縁関係がないと数百から数万分の1の確率でしか一致しない。ドナー登録者は40代をピークに中高年で多く、若年層で少ないという状況にある。ドナー登録は55歳になると取り消されることから、今後、登録者数の減少が予測されている。

担当チーム

チーム名
laughter

メンバー

大学生7名
(4年生：3名、3年生：1名、2年生：2名、1年生：1名)



チーム名の由来

未来の世界を笑いでいっぱい
にしたい！
チーム活動も笑顔で実施

活動の経過

- ✓ 1人でも多くの人に骨髄バンクに関心を持ってもらい、将来を支える若年層にドナー登録してもらう方法を検討
- ✓ 骨髄バンクのドナー登録を啓発している団体の方や、実際のドナー・患者の方からお話を伺い、ドナー登録の現状や、若年層にドナー登録をしてもらう上での課題を学ぶ
- ✓ 市内の大学祭での啓発活動に参加したほか、チームで発案したアイデアを実際の啓発イベントで実践、その経験を提案に活かす

活動の様子



活動実績

ミーティング実施回数	13回 (9月～2月)
フィールドワーク等	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO団体ヒアリング 9/18 ・ ドナー登録会参加 10/1、11/4 ・ 学生献血イベントブース出展 12/18 ・ ドナー、患者へのインタビュー 1/28



- ✓ 「コネクト～次世代につなげるいのちのバトンリレー～」というキャッチコピーを設定し、まずは骨髓バンクに親しみや興味を持ってもらう目的で、ガチャガチャ、チラシ、イメージキャラクター、啓発グッズを提案する。
- ✓ ガチャガチャを設置することで、骨髓バンク啓発ブースに立ち止まってもらえるかどうか、イベントに実際に出展して効果を検証。結果として効果があることがわかった。
- ✓ 「ボーンじい」というキャラクターを考案。担当課の協力のもと、キーホルダーを制作。成果発表会場の学生からは好評を博した。
- ✓ 骨髓バンクドナーと患者の方に実際にインタビューを実施。その内容を盛り込んだチラシ案を作成した。



「コネクト」

～次世代につなげるいのちのバトンリレー～

ガチャガチャの設置

➤ ガチャガチャが設置してあるから立ち止まった？

Yes (65人)	No (21人)
-----------	----------

ガチャガチャの設置：効果あり

イメージキャラクターの作成

"ボーンじい"

- ・"骨"という漢字がモチーフ
- ・骨の形を模した四つ葉のクローバー
- ・骨髓バンクの活動を通して、多くの方に幸せを届けられますように...

チラシ・インタビュー

■ 健康福祉局環境業務課よりコメント

- ・いかに若年層のドナー登録者数を増やすか、という課題。その向こう側には命の瀬戸際に立った患者さんがいらっしゃるため、冷やかしの登録者数を増やせば良いという訳ではなく、行政としてジレンマを感じていた部分があります。
- ・今回の活動を通じて、柔軟な発想による提案を沢山いただきました。グッズ制作等を通じて「学生の皆さんから出たアイデアは、同世代に響きやすい」ということを改めて感じているところです。いただいた提案は、今後の啓発活動にぜひ活かしていきたいと思っております。

成果報告イベントの開催



- 日時** 令和5年2月4日(土)13時30分～17時
- 会場** ナゴヤイノベーターズガレージ
- 参加者** 参加学生29名（欠席者1名）名古屋市関係課職員

開催概要

プログラムの締めくくりとして、活動成果を報告する成果報告イベントを開催しました。各チームから半年間の成果を発表し、協働した担当課よりそれぞれフィードバックコメントをいただきました。また全チームの発表終了後には、中田副市長より総括コメントをいただきました。その後、参加学生がプログラム終了後も引き続き社会課題に関心を持ち、何らかのアクションを起こせるようクロージングワークショップを実施し、半年間にわたる活動の幕を閉じました。

成果報告イベント 当日のプログラム

- あいさつ・プログラム概要説明……………名古屋市(総合調整室)
- 活動報告にあたって……………原コーディネーター
- 活動報告プレゼンテーション
 - ・課題③地域活動の担い手不足を解消したい！……………にじいろマーカース
コメント：スポーツ市民局地域振興課
 - ・課題①若い世代に市政情報を届けたい！……………名古屋の魅力を届け隊！
コメント：市長室広報課、スポーツ市民局広聴課、総務局人事課、環境局減量推進室
 - ・課題④いのちのバトンをつなぎたい！……………laughter
コメント：健康福祉局環境業務課
 - ・課題②「若い世代が住みたくなるまち」ってどんなまち？…ふくろう
コメント：総務局企画課
- 総括コメント……………中田副市長
- クロージングワークショップ……………原コーディネーター

成果報告イベント 当日の様子

